

〈研究ノート〉

情報リテラシー教育における学習支援

——広島修道大学人文学部人間関係学科における
現状分析と今後の展望——

広 田 と も よ

(受付 2006年5月10日)

はじめに

1. 研究対象の属性
2. 現状分析
3. 今後の展望

おわりに

はじめに

近年では一般社会全般にわたり急速にIT化し、コンピューターは大変便利な道具として認識され広く一般に使用されている。しかしその特徴である「正確性」「迅速性」「単純性」「多様性」は時としてたった一つ操作を誤れば重大な問題を引き起こす可能性ももっており、大変切れ味の鋭い諸刃の刃だといえる。例えば切れ味のよいナイフという道具は、調理においてその能力を発揮すれば素材のおいしさをそのままに、また見た目も美しく、皆さまを優雅な一時へといざない喜ばせることができるが、反対にそのナイフを人に向けてるとその道具は凶器へと一変し、生命を奪ってしまう危険さえある。このようにその道具の特徴を十分に理解し、有効に活用する能力と同時に有効に活用されなかった場合の危機意識の両面からの理解が求められる。きちんとコンピューターというものの特徴を理解し、身につけることは大変重要なことである。一般的にコンピューターが使える＝コンピューターの操作がきちんとできる、ということに目が向きがちであるが、

あくまでコンピューターは何かをするための道具であり、重要なのは「自分は何がしたいのか」である。それを実行、展開していく中でコンピューターという道具をこんな場面ではこんなふうに使ったら有効だろうということから始まり、それをスムーズに遂行していくためにはソフトに関する知識や操作方法などを身につけることが必要だとなるのが本来の流れであろう。単にコンピューター操作がきちんとできるかというだけでなく、これら全体をひっくるめた「情報リテラシー能力」は今や社会全般的にわたり必須の能力となっている。

一般に「大学」という機関の果たすべき役割は大きくとらえて①技術や知識、知恵を身に備えた「人」を社会へ輩出すること、②蓄積された研究「成果」を社会へ還元すること、の2つであると考えられている。少々大げさな言い方ではあるが、より広い教養や知識、より高度な技術や知恵、これらの基盤ともなり得る「情報リテラシー能力」をきちんと身に備えた「人」を社会へ輩出する役目を大学は担っているとも言える。また近年では就職のため社会人になるためというだけでなく、すでに在学中に受講する講義においてもレポートやレジュメの作成・提出やそれらに必要な情報の取捨選択など、情報処理能力はすでに必須のものとなっているし、就職活動を行う上でも膨大なデータベースから自分に必要な情報の検索や取捨選択は必須のものとなっている。どの講義どの研究分野においても情報リテラシー能力は必須のものとなっており情報関連教育は学生生活全般にわたり密接に結びついていると言える。

これまで情報処理教育はパソコンやソフトについての操作のテクニカル面でのインストラクションに終始する傾向にあった。また就職の際に資格取得者が有利らしい、社会に出たらコンピュータースキルは必須らしいなどという言葉がひとり歩きし少々偏ったイメージ的な観点から、キャリア支援の一部として直接的にイメージされる傾向も確かにあった。これまで一般的にキャリアという用語は一般的に仕事や職業上の軌跡のことを指していたが、近年ではより広義の概念として「人々の生き方の全体を視野に

おさめ、一個人の生活の向上といった意味合い」（梅沢正『職業とキャリア』2001）という意味も含んで用いられるようになった。よって本研究では、長期的な視野に立ってどう生きたいか何がしたいかを考え、そのためには在学中に何を学び、行動・体験し、どう過ごしたいのかを自分でしっかり考え、その認識を持つこと、これら全体を通しての広義のキャリア支援を目指し（決して就職や資格取得のための短直なサポートだけがキャリア支援というわけではない）学生が大学で一般的な講義を受けるということからさまざまな分野について専門的に学ぶ上にあたって、さらには学生自身が思い描いた“キャリア”の形成に至るまで、その意識の喚起や向上を促すような支援のきっかけを情報関連教育は、他の科目及び学生自身の描くキャリアと多かれ少なかれ関係しており、さらに年々その重要性も増してきているのではないかとも考えられる。そこで情報関連教育が学生のキャリア形成の一助として寄与できる可能性について探ることをテーマとし、今回はそれに向けての現状分析として位置づけるものとする。

1. 研究対象の属性

1) 広島修道大学の概要

広島修道大学は広島県広島市（人口約110万人）に所在する。その創始は1725年、広島藩五代藩主浅野吉長が藩校「講学所」の設立から1887（明治20）年に私立修道学校設立等を経て1960（昭和35）年に広島商科大学という名称で大学を設置したことに始まる。1973（昭和48）年にこれまでの商学部に加え人文学部を設置し現在の「広島修道大学」へ名称を変更。その後法学部、経済科学部、人間環境学部や各大学院設立に準じ規模を拡大。現在5学部9学科5研究科11専攻の総合大学となる。現学生数は約6300人で卒業生数は5万人を超える。現在県内には17の大学があり、開学の古い順に、国立の広島大学（S24前身の広島文理科大学等はさらに古い）、私立の広島女学院大学（S24）、本学（S35）、広島工業大学（S38）、公立の県立広島大学（広島女子大学 S40、但し広島県立大学 H1、広島県立保健福祉大

学 H12これら 3 校合併 H17), 広島文教女子大学, 安田女子大学 (S41), 広島経済大学 (S42), 福山大学 (S50), 広島国際学院大学 (広島電機大学 S52, H11改名), 公立の広島市立大学, 私立の呉大学, 比治山大学, 福山平成大学 (H6), 広島国際大学 (H10), 公立の尾道大学, 私立の日赤広島看護大学 (H12) があり, 伝統校として位置づけられている。

2) 学生の特徴

一般的に高等学校卒業後の進路として, 大学や専門学校等への進学希望者の多くは, ①教養・知見をより広く深め, 将来のための専門的知識・技術を身につけたい, ②自分の将来の夢・就職のための準備期間または社会人となるまでの猶予期間として有意義に数年間の時間を過ごしたい, といった希望を持っている。そうした中で自身を取り巻く諸事情を考慮に入れつつ, 「自分の将来の希望・方向性」と「学べる分野」が合致する教育機関を選択希望する。例えば将来の希望職種が医師になりたいから大学の医学部へ, 看護師になりたいから大学の看護学部や看護系専門学校へなど「この職業に就くためには, こういうところで学ばなければ就くことが難しい」というルートがあらかじめ明確になっている職種がある。こうした場合, 将来の希望職種と取得資格及びそのための学べるカリキュラムがすべて一致していることから, 明確な進路の選択判断がなされやすい。また入学してきた学生も同じような目的・モチベーションを持ちそれらを共有することも比較的容易である。本研究の対象者においても同じように, 将来学校教員になりたいから「教育学専攻」といった確固たる目的を持って入学してくる者ももちろんいる。だが学生の言葉をかりれば「今すぐ社会に出て働くのも早い気がするし, かといって医師や弁護士や教員といった“専門職”を目指したいという確固たる夢があるわけでもないし, 正直言ってまだ将来何になるか決めていない。漠然としている。だから大学へ行ってその猶予期間として四年間のうちに方向性を吟味しよう。さらに大学で教養・見聞を広め深めるうちに“探し物”も見つかるかもしれない」といった淡

い期待と漠然としたイメージをもって、なんとなく分野を選択判断し入学してきたという学生も少なくない。また実際のところ進路決定までに研究分野や職業について全体的なことを広く体系的に理解し、熟知した上で進路を決定したという学生はほとんどいないと言ってもよいだろう。近年では大学という高等教育機関であっても、こうした学生の受け皿となっていることは多かれ少なかれ事実である。

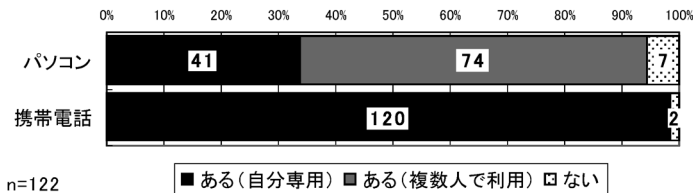
本学の学生の特徴を全体的にみると、①広島及び近隣地域に自宅があり、②地元の文系私立大学で、③比較的伝統をもつ男女共学大学、を選択志望した学生であるといえる。そしてそれらを個別に見ると、①「スペシャル志向」と「ゼネラル志向」が混在しており、②学生のモチベーションも個人により高低の差が激しい、という特徴が挙げられる。

2. 現状分析

1) 「情報処理」に関する学生の周辺環境及び経験

広島修道大学人文学部人間関係学科は心理学専攻、社会学専攻、教育学専攻の3専攻があるが、調査対象とした学生は自担当のクラスとなっている関係から社会学専攻及び教育学専攻のみである。両専攻とも1年次前期必修となっている科目「情報処理Ⅰ」の講義において簡単なアンケート調査を行った。調査時期は2006年5月上旬、調査対象者数は126名でその内訳は社会学専攻55名、教育学専攻71名となっている。うち調査当日遅刻及び欠席が計4名であったことから回答者数は122名となっている。

アンケート結果によると、学生が自宅にコンピューターを所持している



グラフ1 パソコン・携帯電話の学生の所持率

表 1

		1 全くない	2 多少ある	3 頻繁に/ 大いにある	合計
1	Word などのワープロソフトの利用	6 4.9%	105 86.1%	11 9.0%	122 100.0%
2	Excel などの表計算ソフトの利用	16 13.1%	103 84.4%	3 2.5%	122 100.0%
3	PowerPoint などのプレゼンソフトの利用	35 28.7%	85 69.7%	2 1.6%	122 100.0%
4	Access などのデータベースソフトの利用	110 90.2%	12 9.8%	0 0.0%	122 100.0%
5	インターネットで調べ物をする	0 0.0%	56 45.9%	66 54.1%	122 100.0%
6	映画・音楽・ゲーム等のダウンロード	56 45.9%	48 39.3%	18 14.8%	122 100.0%
7	ネットショッピング	83 68.0%	33 27.0%	6 4.9%	122 100.0%
8	チャットや掲示板への書き込み	64 52.5%	50 41.0%	8 6.6%	122 100.0%
9	ブログやホームページの作成	101 82.8%	17 13.9%	4 3.3%	122 100.0%
10	ネットバンキングや証券取引	121 99.2%	1 0.8%	0 0.0%	122 100.0%
11	パソコンでメールの送受信	36 29.5%	64 52.5%	22 18.0%	122 100.0%
12	添付ファイルの送受信	66 54.1%	42 34.4%	14 11.5%	122 100.0%
13	迷惑メール等の受信	74 60.7%	35 28.7%	13 10.7%	122 100.0%
14	ネット詐欺などの被害にあったこと *1	119 97.5%	2 1.6%	1 0.8%	122 100.0%
15	ウイルスに感染 *2	80 65.6%	29 23.8%	13 10.7%	122 100.0%
16	ウイルス対策ソフトの使用	67 54.9%	41 33.6%	14 11.5%	122 100.0%
17	タイピング練習ソフトの利用	26 21.3%	79 64.8%	17 13.9%	122 100.0%
18	年賀状作成ソフトの使用	49 40.2%	57 46.7%	16 13.1%	122 100.0%
19	デジカメで撮った写真の印刷	83 68.0%	33 27.0%	6 4.9%	122 100.0%
20	写真をパソコンで加工	93 76.2%	28 23.0%	1 0.8%	122 100.0%
21	ビデオ等の動画編集	114 93.4%	8 6.6%	0 0.0%	122 100.0%
22	自分で Windows の初期設定	102 83.6%	20 16.4%	0 0.0%	122 100.0%
23	家庭内 LAN 等ネットワークの設定	110 90.2%	11 9.0%	1 0.8%	122 100.0%
24	パソコン本体の分解・組み立て	116 95.1%	6 4.9%	0 0.0%	122 100.0%
25	MAC 機の利用	112 91.8%	8 6.6%	2 1.6%	122 100.0%
26	プログラムの記述・作成	111 91.0%	11 9.0%	0 0.0%	122 100.0%
27	ファイルのコピー (バックアップ)	76 62.3%	41 33.6%	5 4.1%	122 100.0%
28	著作権について勉強したこと	38 31.1%	79 64.8%	5 4.1%	122 100.0%

*1 項目で用意した回答 2「あいさうになった」 3「実際に被害にあった」

*2 項目で用意した回答 2「わからない」 3「実際に感染した」

率は94.3%（うち自分専用に所持している率は33.6%）となっている。また携帯電話を所持している率は98.4%となっている。

また「これまでコンピューターでどんなことをしたことがあるか」について28の項目を設け、3段階評価してもらった。結果は表1, 2の通りである。

表2

順位	No	項目	平均値	標準偏差
1	5	インターネットで調べ物をする	2.54098	0.50037
2	1	Wordなどのワープロソフトの利用	2.04098	0.37256
3	17	タイピング練習ソフトの利用	1.92623	0.59151
4	2	Excelなどの表計算ソフトの利用	1.89344	0.38154
5	11	パソコンでメールの送受信	1.88525	0.68269
6	3	PowerPointなどのプレゼンソフトの利用	1.72951	0.48168
々	18	年賀状作成ソフトの使用	1.72951	0.68075
々	28	著作権について勉強したこと	1.72951	0.53066
9	6	映画・音楽・ゲーム等のダウンロード	1.68852	0.71676
10	12	添付ファイルの送受信	1.57377	0.69136
11	16	ウイルス対策ソフトの使用	1.56557	0.69220
12	8	チャットや掲示板への書き込み	1.54098	0.61855
13	13	迷惑メール等の受信	1.50000	0.68333
14	15	ウイルスに感染	1.45082	0.68154
15	27	ファイルのコピー（バックアップ）	1.41803	0.57266
16	7	ネットショッピング	1.36885	0.57784
々	19	デジカメで撮った写真の印刷	1.36885	0.57784
18	20	写真をパソコンで加工	1.24590	0.45110
19	9	ブログやホームページの作成	1.20492	0.47999
20	22	自分でWindowsの初期設定	1.16393	0.37174
21	23	家庭内LAN等ネットワークの設定	1.10656	0.33544
22	4	Accessなどのデータベースソフトの利用	1.09836	0.29903
22	25	MAC機の利用	1.09836	0.34997
24	26	プログラムの記述・作成	1.09016	0.28760
25	21	ビデオ等の動画編集	1.06557	0.24856
26	24	パソコン本体の分解・組み立て	1.04918	0.21714
27	14	ネット詐欺などの被害にあったこと	1.03279	0.22023
28	10	ネットバンキングや証券取引	1.00820	0.09054

さらにそれらを「全くないと」と回答したものを“経験なし”，「多少ある」「頻繁に/大いにある」「経験あり」と回答したものを合わせて“経験あり”の 2 カテゴリーに分け，各項目の経験率を高位順にしたものが表 3 である。

表 3

順位	No	項目	経験率
1	5	インターネットで調べ物をする	100.0%
2	1	Word などのワープロソフトの利用	95.1%
3	2	Excel などの表計算ソフトの利用	86.9%
4	17	タイピング練習ソフトの利用	78.7%
5	3	PowerPoint などのプレゼンソフトの利用	71.3%
6	11	パソコンでメールの送受信	70.5%
7	28	著作権について勉強したこと	68.9%
8	18	年賀状作成ソフトの使用	59.8%
9	6	映画・音楽・ゲーム等のダウンロード	54.1%
10	8	チャットや掲示板への書き込み	47.5%
11	12	添付ファイルの送受信	45.9%
12	16	ウイルス対策ソフトの使用	45.1%
13	13	迷惑メール等の受信	39.3%
14	27	ファイルのコピー (バックアップ)	37.7%
15	15	ウイルスに感染 (しかたどうかわからないを含む)	34.4%
16	7	ネットショッピング	32.0%
〃	19	デジカメで撮った写真の印刷	32.0%
18	20	写真をパソコンで加工	23.8%
19	9	ブログやホームページの作成	17.2%
20	22	自分で Windows の初期設定	16.4%
21	4	Access などのデータベースソフトの利用	9.8%
〃	23	家庭内 LAN 等ネットワークの設定	9.8%
23	26	プログラムの記述・作成	9.0%
24	25	MAC 機の利用	8.2%
25	21	ビデオ等の動画編集	6.6%
26	24	パソコン本体の分解・組み立て	4.9%
27	14	ネット詐欺などの被害にあいそうになった	2.5%
28	10	ネットバンキングや証券取引	0.8%

ただし、表3の「経験率」についてはあくまで少しでもやってみたことがあるのか否かのパーセンテージであって、高い数字が出ているからといって十分な知識とスキルがあるとは限らない。実際、今学期が始まって現在約1ヶ月经過したところだが、学生のコンピューターの扱い、入力速度、習得時の反応などから総合的に判断しても、まだまだ十分な知識とスキルを身につけているとは言いがたい。あくまで1回でもソフトを起動して入力や触ってみたことがあるかそうではないかといったレベルでの経験率であることを注意しておきたい。

次に「全くない」を0点、「多少ある」を1点、「大いにある」を2点とし、学生のスコア分布について調べた結果が表4の通りである。

表4 合計スコア

点	人数	%
1 - 5	10	8.2%
6 - 10	38	31.1%
11 - 15	34	27.9%
16 - 20	25	20.5%
21 - 25	13	10.7%
31 - 35	2	1.6%
総計	122	100.0%
平均値	13.11475	
標準偏差	5.97543	

また各項目間の関係を示したものが表5である。表中の数値は相関係数で、 $p < 0.05$ の場合に*印、 $p < 0.01$ の場合に**印で有意差の有無を示し一覧表にした。用紙幅の関係から4つに分割してある。

表 5-1

	パソコン所持	携帯電話所持	1) Word	2) Excel	3) PowerPoint	4) Access	5) インターネット	6) ダウンロード
パソコン所持	1.0000							
携帯電話所持	0.0640	1.0000						
1) Word	0.1025	0.0143	1.0000					
2) Excel	-0.0145	0.3036**	0.4961**	1.0000				
3) PowerPoint	0.0060	0.0618	0.1083	0.3365**	1.0000			
4) Access	-0.1148	0.0426	-0.0365	0.0926	0.0715	1.0000		
5) インターネット	0.1348	0.0106	0.1461	0.0447	-0.1079	-0.1376	1.0000	
6) ダウンロード	0.0734	0.0341	0.1720	-0.0015	0.0173	0.1056	0.2894**	1.0000
7) ショッピング	0.0116	-0.0294	0.0444	-0.0077	0.0645	0.0274	0.2760**	0.3196**
8) チャット	0.1564	0.0086	0.2258*	0.1062	0.3010**	-0.1113	0.3016**	0.3646**
9) ブログ HP 作	0.2146*	0.0553	0.1375	-0.0152	-0.0085	-0.0264	0.2572**	0.2111*
10) バンキング	0.1167	0.0117	-0.0100	0.0255	0.0513	-0.0300	-0.0987	0.0397
11) PC メール	0.1481	-0.0218	0.2461**	0.0479	0.1310	0.0153	0.4252**	0.5006**
12) 添付ファイル	0.2435**	-0.0799	0.3251**	0.1084	0.1255	-0.0354	0.3854**	0.3803**
13) 迷惑メール受	0.1500	0.0000	0.2110*	0.0792	0.1381	0.0000	0.3626**	0.4218**
14) 詐欺等被害	0.1919*	0.0193	-0.1172	-0.0564	0.0064	-0.0494	0.1377	0.2223**
15) ウィルス感染	0.1434	0.0857	0.0894	0.0274	0.0724	0.0645	0.2968**	0.3913**
16) ウィルス対策	0.3125**	-0.0814	0.2298*	-0.0203	-0.0083	-0.0713	0.2546**	0.4579**
17) タイピング	0.0373	-0.0162	0.2013*	0.1480	-0.0416	0.0881	0.0522	0.2377**
18) 年賀状作成	0.0903	-0.1467	0.4351**	0.1745	0.1279	-0.1118	0.3118**	0.1816*
19) デジカメ印刷	0.1384	-0.2538	0.1979*	0.0298	-0.0543	-0.0682	0.3046**	0.1799*
20) 写真加工	-0.0117	-0.2167	0.0871	0.0575	0.1185	0.0643	0.0648	0.2388**
21) ビデオ編集	0.1633	0.0342	-0.0293	0.0743	0.0113	0.1349	0.0447	-0.0700
22) Windows	0.1744	-0.1172	0.0704	-0.1089	-0.0272	0.0024	-0.0364	0.1002
23) LAN 設定	0.1475	-0.1520	0.1632	-0.0397	-0.0759	-0.1054	0.2938**	0.3111**
24) PC 組立	0.1570	0.0294	-0.0251	-0.1357	-0.1088	-0.0751	0.1334	0.3647**
25) MAC 利用	0.0274	0.0364	0.0956	0.0791	0.0611	-0.0142	0.0240	0.0243
26) プログラム	0.0476	-0.1847	-0.0348	-0.1377	-0.1208	0.0882	0.0028	0.0572
27) バックアップ	-0.0055	-0.0186	0.1902*	0.0543	0.0238	-0.0491	0.1849*	0.2192*
28) 著作権	0.0606	0.0561	0.0565	0.1422	0.1317	-0.0393	0.1199	-0.0278
1~28のスコア計	0.2454**	-0.0517	0.4285**	0.2120*	0.2119*	0.0306	0.5208**	0.6394**

広田：情報リテラシー教育における学習支援

表 5-2

	7) ショッピング	8) チャット	9) ブログHP作	10) バンキング	11) PC メール	12) 添付ファイル	13) 迷惑メール受	14) 詐欺等被害
7) ショッピング	1.0000							
8) チャット	0.2464**	1.0000						
9) ブログ HP 作	0.2318*	0.4308**	1.0000					
10) バンキング	0.0997	0.0677	-0.0390	1.0000				
11) PC メール	0.3596**	0.5201**	0.2993**	0.0153	1.0000			
12) 添付ファイル	0.2520**	0.4857**	0.3152**	0.0563	0.7535**	1.0000		
13) 迷惑メール受	0.1360	0.4888**	0.3402**	0.0668	0.4960**	0.5598**	1.0000	
14) 詐欺等被害	0.1640	0.2327**	0.1705	-0.0136	0.2451**	0.1468	0.1098	1.0000
15) ウィルス感染	0.2248*	0.2989**	0.2458**	-0.0604	0.2897**	0.2007*	0.3638**	0.1210
16) ウィルス対策	0.2593**	0.3025**	0.2204*	0.0573	0.3833**	0.3870**	0.2534**	0.1484
17) タイピング	-0.0890	-0.0481	0.0828	0.0114	0.0198	0.0841	0.1329	-0.1082
18) 年賀状作成	0.0877	0.3504**	0.2216*	0.0363	0.3595**	0.3500**	0.3642**	-0.0506
19) デジカメ印刷	0.0842	0.2233*	0.2914**	0.0997	0.2758**	0.4382**	0.2826**	0.0341
20) 写真加工	0.0613	0.2302*	0.1089	-0.0498	0.1729	0.2328**	0.1072	0.0014
21) ビデオ編集	0.1755	-0.0176	0.0250	-0.0241	0.0447	0.0197	0.0000	-0.0396
22) Windows	-0.1684	0.0784	0.2270*	-0.0403	-0.0555	0.0490	0.1301	0.0348
23) LAN 設定	0.0087	0.1979*	0.1712	-0.0290	0.3426**	0.3756**	0.2344**	0.1761
24) PC 組立	-0.0140	0.2310*	0.1404	-0.0207	0.2614**	0.2509**	0.1114	0.4845**
25) MAC 利用	0.0234	0.0576	0.0758	-0.0257	0.0476	0.1064	0.1382	-0.0422
26) プログラム	-0.1023	-0.1371	0.0447	-0.0286	0.0311	0.0286	0.0210	-0.0471
27) バックアップ	0.0547	0.0562	0.0466	0.0928	0.1449	0.2450**	0.1795*	-0.0440
28) 著作権	-0.0493	-0.0289	0.1221	0.0465	-0.0180	0.1112	0.1254	-0.0649
1~28のスコア計	0.3682**	0.6181**	0.4902**	0.0594	0.7063**	0.7361**	0.6659**	0.2044*

表 5-3

	15) ウィルス感染	16) ウィルス対策	17) タイピング	18) 年賀状作成	19) デジカメ印刷	20) 写真加工	21) ビデオ編集	22) Windows
15) ウィルス感染	1.0000							
16) ウィルス対策	0.4186**	1.0000						
17) タイピング	0.0422	0.1431	1.0000					
18) 年賀状作成	0.0512	0.1695	0.3195**	1.0000				
19) デジカメ印刷	0.0569	0.3419**	0.2253**	0.4658**	1.0000			
20) 写真加工	0.0665	0.2920**	0.2854**	0.1915*	0.4735**	1.0000		
21) ビデオ編集	-0.0784	0.0709	0.1456	0.0569	0.1179	0.2235*	1.0000	
22) Windows	0.2930**	0.2148*	0.2058*	0.0134	-0.0530	0.0400	-0.0279	1.0000
23) LAN 設定	0.0773	0.2722**	0.0816	0.0549	0.2219*	0.0985	-0.0845	0.2564**
24) PC 組立	0.1840*	0.1983*	0.0285	-0.0211	0.0518	0.0443	-0.0602	0.2065*
25) MAC 利用	-0.0835	0.1096	-0.0445	0.0432	0.1869*	0.1073	0.2103*	0.0656
26) プログラム	0.0861	0.1569	0.0880	-0.0855	0.0966	0.0825	0.1478	0.3244**
27) バックアップ	0.1060	0.2117*	0.1650	0.1229	0.2045*	0.2386**	0.0381	0.0636
28) 著作権	-0.0028	0.0824	0.1992*	0.2076*	0.1124	0.1075	0.0103	0.0172
1~28のスコア計	0.4803**	0.6156**	0.3321**	0.5400**	0.5405**	0.4248**	0.1340	0.2147*

表 5-4

	23) LAN 設定	24) PC 組立	25) MAC 利用	26) プログラム	27) バックアップ	28) 著作権	1~28の スコア計
23) LAN 設定	1.0000						
24) PC 組立	0.3813**	1.0000					
25) MAC 利用	0.0508	0.0446	1.0000				
26) プログラム	0.0709	0.1931*	0.1575	1.0000			
27) バックアップ	0.2825**	0.0992	0.0406	0.2711**	1.0000		
28) 著作権	-0.1153	-0.0988	0.0554	-0.0013	0.1576	1.0000	
1~28のスコア計	0.3979**	0.2886**	0.1882*	0.1334	0.3916**	0.2236*	1.0000

2) 現在のカリキュラムと内容

現在のカリキュラムでは1年次に「情報処理Ⅰ」が半期で行われ必修となっている。その後2年次以降に希望者のみ選択科目として「情報処理Ⅱ・Ⅲ」と「情報処理Ⅳ」を履修できるようになっており表6の通りとなっている。

表6 現在のカリキュラム

1年次 (必修)	2～4年次 (選択)		
情報処理Ⅰ 学内での利用法, コンピュータ知識, インターネット, 電子メール, ワープロ, 表計算 の基礎	情報処理Ⅱ 表計算の基 礎から応用 ※Ⅱ(前期)・Ⅲ(後期)セット履修	情報処理Ⅲ プレゼンテー ションの基礎 から応用	情報処理Ⅳ 調査のため の統計分析

現在の問題点として挙げられるのは、選択科目として設置されるクラス数が少ないため履修希望者が殺到し、履修を希望しても多くの学生は受講できない。そのため大学4年間のうち情報処理関連教育が受講できる機会は1年次半期のみという学生が圧倒的多数となっている現状があるため必修の情報処理Ⅰはやや詰め込み気味になってしまう点がある。また卒業後就職した際に外部社会が期待するレベルの情報処理能力と実際の学生の情報処理能力とにややギャップがある点も挙げられる。こうした点を解消すべく新カリキュラムの編成が行われつつある。

3. 今後の展望

1) 今後のカリキュラム編成

本大学では2007年度より学部や専攻等に関わらず全学生に対して習得を義務付けるものとして「修道スタンダード」科目が設置されるが、これにともない情報処理分野においては最低限の情報リテラシー能力を全員が習

得すべきガイドラインが策定されることとなる。これはあくまで下限的ガイドラインであって、このレベルをクリアしさえすれば充分だという基準ではないと理解すべきであろう。さらに全体的にカリキュラムが各学科専攻においても再編成され、その一環として情報関連教育も同様に再編成されることとなり、よって修道スタンダード科目としても、各学科専攻内に設けられた情報処理関連科目としても刷新されることとなる。そこで情報関連教育が全体カリキュラムの中でどの位置に占めるのかを図表化する。まず大学での講義を分野的側面を見た **special** ⇔ **general** の指標を縦軸に配置させ、講義の形態や方法的な側面を見た **academic** ⇔ **practical** の指標を横軸に配置したものが図1である。情報関連教育の占める位置はここで大まかにグレーの部分となる。

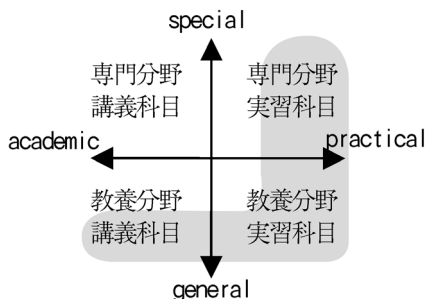


図1 全体的イメージ

また情報関連教育として取り扱うことが望まれる内容は多岐に渡るであろうが、それらを大学における学業やその他学生生活において直接的に差し障りがあるもの、ありそうなものを「差し障り度（高）」とし、大学生の間は差し迫って必要ではないが一般社会においてある程度必要とされるであろうものを「差し障り度（低）」とし縦軸に配置する。またいかなる分野においても必須となるものを「必須的」と、専攻分野等によって選択的でよいものを「選択的」として横軸に配置する。そしてそれぞれ4つのエリアを図のとおり「A群～D群」としたのが図2である。それぞれの群

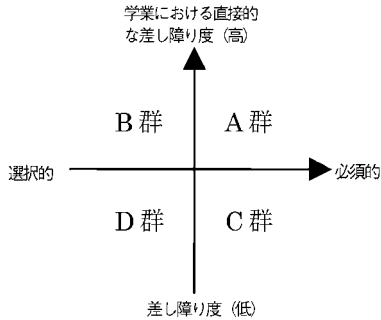


図 2 情報関連教育での分類

には具体的にどのような分野があるかを「区分」に記し、またその主な内容や必要な場面などの案を記したものが表 7 である。

これらは 1 区分 = 1 科目ではなく情報関連教育として確保できるコマ数に応じ、さらにどの程度のレベルまでを設定すべきかに応じて関連性のある区分をあわせて調整しカリキュラム化するが、修道スタンダード科目は A 群を重点的に実施することが理想であり、各学科専攻では B、C 群を中心に及び付加的に D 群のうち、重要度の高いものを実施することが理想と思われる。ただし修道スタンダード科目としても各学科専攻科目としても、情報処理関連教育は単なるソフトのインストラクションや知識の習得としてとらえるだけでなく、全体のカリキュラムと連動して区分ごとに学生の専攻分野等によって取り扱う内容や題材等において他の講義科目との関連性を保ちながら取り組むことができればより効果的であると思われる。

2) 求められる学習支援

カリキュラム化し計画決定することの利点は、システムとしての恒常性、公開性、正当性をもつこととなり、システムとしての安定性・確実性もより高まると考えられる。だがその反作用として利点を高めようとするほど講義はマニュアル化され、固定化、作業化されていく傾向にあり、教室という限定的な世界の中でやがては講義をする側、受ける側ともに個々

広田：情報リテラシー教育における学習支援

表 7

群	区 分	主な内容・必要な場面
A 群	学内基礎	学内施設の利用に関して。ID・パスワードの管理等学内におけるセキュリティ管理の徹底に関して。ネットワークドライブに関して。
	コンピューター基礎	基本的なコンピューターの構造と種類の特長（ハード面とソフト面）。機種・互換性に関して。ファイルの種類・拡張子・互換性に関して。各種記録メディアの特長。日本語入力システムに関して。全ての文字・記号などが正確にスピーディに入力できる。
	OS 操作	起動・終了。ウインドウ操作。ファイルの管理。OS の諸設定。
	ワープロ（基礎）	在学中の指定形式にあわせたレジュメ・レポート・卒業論文などの作成のために必要な各種編集機能，表作成，図や写真等の挿入など。見栄えのよい文書を妥協せず作れるようになること。
	インターネット利用	インターネットの大まかな構造と特徴。利用上の注意点。欲しい情報に対する適切な検索方法。文献・論文の検索。就職活動時の情報収集。
	メールの利用	メールの送受信など基本操作。添付ファイルで提出物の提出。マナーと書き方の作法。メールの適切な管理。さまざまな設定
	セキュリティ管理とコンプライアンス	ウイルス等に対する認識・対策。自己によるセキュリティ管理とそれらの徹底。著作権・個人情報保護・名誉毀損等に関しての違法行為・違法ではないが好ましくない行為などの理解と遵守。コンピューター等の機器を通じた間接的なコミュニケーションの特徴と注意点。近年発生している問題の事例。
B 群	表計算（基礎）	在学中に行うデータ処理やレポート等に挿入するための表計算機能，関数，各種グラフ作成，データベース機能，各種集計機能など。
	プレゼンテーション	在学中に行うプレゼンテーションのためのスライドの作成，編集，アニメーション効果等の諸設定など。
	写真加工	レジュメやレポート，プレゼン資料に挿入するための写真を見栄えよくするための簡単な編集・加工など。
	動画編集	プレゼン資料のための動画の編集・加工など
	デザインの基礎	見栄えのよい文書や映像を作成するための，配置，色，書体等のイメージや特徴などの理解。事例を用いた実習。
	統計解析の基礎	調査や研究のための統計的処理の基本的な諸手法とそれぞれの操作について。
	その他	専攻や選択分野により発生する必要知識・スキル
C 群	コンプライアンス	学生や一個人としてではなく企業や組織の立場としての情報関連のコンプライアンスモラル向上について。
	思考法	正確で迅速な処理のためにどのように指示するか等論理的思考法。論理式や関数を利用し具体的に作動させる方法。簡単なバッチ処理・マクロ作成。
	データベース	データ・クエリ・フォーム・レポート・リレーションシップ等の仕組みの理解とデザイン等それらの操作。定型処理の自動化やデータベース利用の特徴。
	表計算（応用）	表計算（基礎）をさらに詳細機能なども含め多種多様に應用。
	ネットワーク	ネットワーク・共有の考え方と基本設定。文書の電子化。グループウェア等。
	機器の知識	コンピューター機器に関する多種多様な知識。
	その他	その他
D 群	ワープロ（応用）	広報物などの作成。差込印刷，その他の詳細機能の設定と操作
	Web 関連	Web ページの作成。
	会計	簡単な会計に関する知識とそれらに関するソフト
	統計解析	統計解析の基礎より複雑で多様な解析方法と解析ソフト等の操作について。
	プログラム	プログラム記述など
	その他	その他専門的なソフトの利用や知識。

のパーソナリティやアイデンティティを喪失し、結果として双方が与えられたものを与えられたようにこなしていく“受動態”姿勢になってしまい「孤独な群衆 (The Lonely Crowd)¹⁾」と化していく傾向がある。しかし学生自身も教職員もさらには外部社会も理想とし期待する人物像は、反対の“能動態”姿勢の人物であり、自分で考え、実行し、展開、応用していく意欲と能力を身につけている人物である。例えば利用者・組織・社会の快適や満足のために自分は何ができるだろうか、それを考え実行することができる人物である。もちろん業務・場面によっては与えられたことを与えられたようにこなしていくことが求められることもあるが、一見そうした無機質な単なる作業のように思える業務においても、もっとこうしたら喜ばれるのではないか、役に立つのではないかと能動的に関わっていきける発想力があるのとないのとは、その後の展開が大きく違ってくるものである。ここで問題となるのが、通常「講義」というサービスにおいては、発信する側 (=先生)、受ける側 (=学生) が明確に区別され、お互いその役割をひたすらに遂行することが「講義」だとして認識される点にある。確かに先生と学生との立場は明確に区分されなければならないし、お互いその役割を遂行することが求められなければならない。しかし発信する側と受ける側が明確に区分されている状態では、受ける側 (学生) は“能動性”を持つ余地がないのである。大教室での講義や、画一的に行われる講義は、より多くの学生に均質なサービスを届けることができるという利点を享受する反面、こうした点が欠落してしまう。このように限られた「講義」という世界の中では「講義化すること」と「学生の能動性を高めること」は互いに合い入れない関係が付きまとう。双方のバランスを取ることは大変難しいことであるが、それには講義において学生が能動的に関われる工夫と余裕と個に対する対応力が欠かせない。この穴を埋めるため少人数制や担任制 (ゼミやチューター) などが重要だとされる。ただしこれらは学

1) D. リースマンの著書タイトル。『孤独な群衆』加藤秀俊訳 みすず書房 1964

生の“能動性”に力点を置いてはじめて効を成すもので、単に一部屋あたりの受講生数が少ないだけで講義は画一的というのでは意味がない。また人間は他者を通してしか自己を知ることができないといういわゆる「鏡に映った自己（looking glass self）²⁾」と同様に、学生は自分の力が外部社会からどう見られているか、どう判断されるのかを自分で知るためには、外部とのつながりを通してしか知ることができない。大学生活のうちにそれができる方法としては実際のところアルバイト、ボランティア、留学、インターンシップ、資格取得、就職活動くらいであろう。学生は外部社会に直接触れることで「はじめて自己を認識し、自己を認識することによってはじめて自己の不足点を発見」と考えられる。

よって学生の意識を向上させるためには、大学内にとどまる発信型講義だけではもはや充分ではなく、まず学生に自己を認識させること、そして学生が自己の不足点を認識しそれをリカバーできるように支援したり、さらなる向上心を育てるような仕組みづくりをしていかなければならない。学生はこれらの「実際の活動」と「大学での講義」がリンクすることが認識できると学習の目的がより明確化され、モチベーションも向上化させるように思われる。そうしたことを念頭において講義をその性質や目的によって「大量均質性重視型」「研究専門性重視型」「学生能動性重視型」「学生自己認識重視型」といったスケールに分類し欠落点はないか均衡は取れているかをチェックすることも一手段としてあってもよい。そうすることにより例えば「大量均質性重視型」については e-Learning 化しても構わない、「学生能動性重視型」については少人数制演習や実習形式を取り入れようなど、その手段や内容等に工夫がなされやすくなると思われる。この講義形態別にみるスケールを情報関連教育にあてはめると、各スケールにおいて各々分布していることが望ましいであろう。そこで情報関連教育における「大量均質性重視型」「研究専門性重視型」「学生能動性重視型」はそれ

2) C.H. クーリーによる概念。『社会組織論：拡大する意識の研究』大橋幸、菊池美代志訳 青木書店 1970

ぞれカリキュラム化が可能であるし、容易に想像もつくであろうが、「学生自己認識重視型」とはいかなる方法があるか。そのうちのひとつに資格取得がある。これまで5～6年にわたり学習意欲が高いと自認する学生を対象に放課後や夏休みに無料の自発的講座として、コンピュータスキルや知識から資格に関する対策などを学習する場を設けてきた。ここに来る学生の多くは、元々資格取得を目的としているか仲間に触発されそれを志すようになったかして、結果として何らかの資格を取得していった。この経験を通して見えてきたことは、特に資格というものは公正で一般社会においても認知されているので、学生のモチベーションの向上に直接的に働きかけることも可能であるし、努力の末に取得できたときは自信につながりやすい。しかし資格取得はあくまで手段のうちの一つであり、手っ取り早い反面、偏りすぎると逆効果となる場合もあり得ることを注意しなければならない。特に近年「資格がない＝就職に不利」という単純化された情報だけがひとり歩きし、その結果、そうした情報を耳に入れた者は逆の推測として「資格がある＝就職に有利＝就職できる＝仕事ができる」ということが成り立つように捉えてしまう。そして資格取得に固執するあまりこれに翻弄される者も出てくる。しかし現実社会においてはそう単純にこの推測が成り立つものではないが、社会へ出たことのない学生は現実にはそれは捉えちがいであることに気づかないという問題に陥ることがある。例えば教員免許のように資格を持っていないと学校教員になれないという資格ならともかく、ここで扱う情報関連教育に関するものの多くは、資格を持っていないと仕事ができないというわけではない。あくまで資格取得という一手段を通して、自らで将来を見据え、自ら目的や目標を持ってそれに向けて自ら修練する姿勢、それを実行・実現したことから得られる充実感、そこからわき出る自信など、いわゆる学生一人ひとりがそれぞれに獲得した“コンピテンシー”が評価へとつながっていくわけで、資格があるかないかが単純に評価されるわけではない。単純に「立派な資格がある人」＝「“いい仕事”をする人」ではないのである。例を挙げるならば、教職に就

けば「教員」にはなれるがそれだけでは「師」にはなれない、といったことと同様である。特に短期的または限定的な業務では即戦力が求められる場合もあるが、長期的または全般的な業務においては、小手先の即戦力よりもコンピテンシーといわれるような総合的能力が求められる傾向が強いように思われる。よって大学のカリキュラムとして資格取得を取り入れる場合は、このようなコンピテンシーを高めることを念頭に置いた上で取り入れなければ“有効”とは言い難いのではないだろうか。

終 わ り に

今回はテーマに対する序論的な位置づけであったためサンプル数も限定的であったが、今年度の学生の習得達成度調査等を実施し、継続的に追跡調査していく必要がある。

またカリキュラムが整えば万全という捉え方ではなく、カリキュラム立てはあくまで大学における講義の「制度＝ハード」を整えたという段階であり、本来の目的である学生の「技術・知識・知恵」「実行力」「コミュニケーション能力」を身に備えたコンピテンシーの高い人材を育て社会へ羽ばたかせるためには、さらに「内容＝ソフト」面において試行錯誤しながらも教育していくことが求められる。そしてさらに中長期的視点からも「制度」と「内容」との両側面からフィードバックさせ確認していくことが欠かせない。

参 考 文 献

『新社会学辞典』、森岡清美、塩原勉、本間康平編集代表、有斐閣、1993